

あれこれかあ



ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

2022年10月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL. 047-320-3346

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
10月	566	472	389	15	10	1,452	1,388	55	170	164	129	536	3,894
累計	4,445	3,219	3,025	67	52	10,808	10,587	373	1,382	972	850	3,796	28,768

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📄 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

I/Q3 市川市立中山小学校があるあたりの高台のことを、通称で「うずら台」と言うそうだが、この通称の由来を知りたい。

『中山小学校百年史』（中山小学校創立百周年記念事業実行委員会 1982）p.1に、「中山小学校は「うずら台」という高台に臨み、恵まれた自然環境の中にある。「うずら台」の呼び名は、字名「宇津羅」に由来するとも、またその昔「鶉」がたくさん飛んできたことによるともいわれている。」との記述がある。

また、『校歌は生きている』（市川市教育委員会 1987）のp.33「中山小学校」の項にも以下のような記述がある。「中山小学校のある高台を、むかしの人は「うずら台」と呼んでいた。みごとな枝ぶりを見せる松が多く、自然の環境に恵まれていて“うずら”がたくさん飛んでくるところから、この地名がおこったともいわれ、「宇津羅」の字名もあったほどである。」

なお、『市川市字名集覧』（市川市教育委員会 1973）p.22より、「宇津羅（うづら）」は旧中山町の大字 中山の子字で、現在の住居表示では「中山1丁目1～4、6の一部、7～11、12、13の各一部、北方3丁目2、6の各一部」が該当することが分かる。

017 図書館の利用教育の推進に関して、最近の事例が記載されている資料はあるか。

『図書館情報学用語辞典』（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会／編 第5版 丸善出版 2020）p.185「図書館利用教育」の項目に、「近年では、情報環境の変化などを背景に教育内容が拡大、多様化し、図書館を含むさまざまな情報（源）の効果的利用に必要な知識や技能（情報リテラシー）の修得を目指す種々の活動を包括する用語と解される。」との記述がある。これに基づく『学校司書のための学校図書館サービス論』（学校図書館問題研究会／編 樹村房 2021）p.111-123「第8章 学校図書館利用教育」や『図書館雑誌 2019年12月』（日本図書館協会）p.792-「特集 情報リテラシーをめぐって 学校図書館を核に」、『情報サービス論』（現代図書館情報学シリーズ5 山崎久道／[ほか]編著 樹村房 2019）のp.178-199「7章 利用教育の現状と展望」等に、図書館の利用教育あるいは情報リテラシーについて、事例を挙げながらの記述がされている。

また、国立国会図書館のWebページ「カレントアウェアネス・ポータル 図書館に関する情報ポータル」（日本国内と海外の最近の図書館事情やニュース、図書館情報学の研究動向に関する情報の提供しているWebサイト）で検索キーワードを「利用教育」「情報リテラシー」と入力して検索すると、近年の事例が紹介されている。（<https://current.ndl.go.jp/> 11/25 確認）

こどもとしゃかんでも、年間を通して様々なお問合せが寄せられています。
後半は、児童特集です。

E たいこ以外の楽器がでてくる絵本をさがしている。
(絵本)

『きつねとタンバリン』(安田浩/作 柿本幸造/絵 ひさかたチャイルド 2009)、『きょうはマラカスのひ』(樋勝朋巳/文・絵 福音館書店 2013)、『クマと森のピアノ』(デイビッド・リッチフィールド/作 俵万智/訳 ポプラ社 2017)、フルートがでてくる『おんがくねずみジェラルディン』(レオ=レオニ/作 谷川俊太郎/訳 好学社 1980) など。たくさんの楽器が出てくる絵本は『つきよのおんがくかい』(山下洋輔/文 柚木沙弥郎/絵 福音館書店 1999)、『キュッパのおんがくかい』(オーシル・カンスタ・ヨンセン/作 ひだにれいこ/訳 福音館書店 2014)、『ねずみくんとおんがくかい』(なかえよしを/作 上野紀子/絵 ポプラ社 1999) などがある。

K486 みのむしの中の様子や枝にぶら下がっている様子がわかるこどもの本はあるか。

『みのむしーちやみののがのくらし』(甲斐信枝/作 福音館書店 1984) は、みのむしの一生が丹念に観察されて描かれたイラストによって、非常によく理解できる。^{みの}蓑をつけたまま食事をする様子や、丈夫な蓑を木に固定する様子、また、生まれたばかりのみのむしがすぐに蓑をつくる様子など、動かないみのむしを目にすることが多い中、新鮮で多様な知識が得られる。蓑の中の様子もおすとめすが別々に描かれていて詳しい。『みのむしがとんだ』(得田之久/作 童心社 1978) は、はっきりしたイラストと物語風の語り口で、みのむしの四季の様子が幼い子にも理解できる本。『ファーブルこんちゅう記 絵本版ファーブル&シートン傑作選 9 みのむし』(小林清之介/文 金尾恵子/絵 チャイルド本社 2014) は、やさしい語り口で、みのむしの名前の由来や生態が丁寧に説明されており、イラストで描かれた蓑の中の様子もわかりやすい。裸になった虫が蓑をまとしてみのむしに変化していく実験の様子も面白い。

K616 雑穀について小学生にわかるような資料はないか。雑穀の種類や歴史、食べ方や栄養などが知りたい。

『そだててあそぼう アワ・ヒエ・キビの絵本』(ふるさわふみお・おいかわかずや/へん 農山漁村文化協会 2003) は、まるごと1冊が子供向けの雑穀の本であり、写真やイラストを多く使い、歴史、栽培方法、料理方法など、雑穀について一通りの知識を獲得できる。『くらべてわかる食品図鑑3 米とこく類』(大月書店 2007) p.13には、主に日本における雑穀の歴史がわかりやすくまとめられている。『おいしい“つぶつぶ” 穀物の知恵ーゲッチョ先生の穀物コレクション』(盛口満/文・絵 少年写真新聞社 2015) はつぶつぶが特徴である植物が緻密なイラストで紹介され、p.26~の雑穀のページではアワやヒエ以外でも食用になる雑穀・雑草がわかる。そのほか、雑穀のそれぞれの粒の特徴がわかりやすいのは『食べものはかせになろう 2 米・麦からつくる食べもの』(ポプラ社 2010) や『まるごといつもの食材』(学研教育出版 2011)、食べ方や料理のレシピは『NHK ためしてガッテン健康料理かんたんレシピ集 2 おなかにやさしい健康料理』(汐文社 2004) で知ることができる。

コ 910 椋鳩十著『大造じいさんとガン』の初出はいつか知りたい。
(児童研究)

『椋文学の散歩道』(たかしよいち/著 理論社 1998) p.56に、「小学国語教材として広く知られるこの作品は、雑誌『少年倶楽部』(昭和16年11月号)に発表された。発表時は、前書きなしの常体で書かれている。のち、単行本として刊行されたとき(『動物ども』三光社、昭和18年)前書きがつき、敬体に改められた。」とある。

p.62に掲載されている付け加えられた前書きをみると、この話は、栗野岳にすむ72歳の老狩人が、35-6年前のころを語ることになっていて、実際には狩人は若者であったことがわかる。

『椋鳩十文学の研究』(阿部真人/著 大日本図書 1984) p.151~によると、前書き部分のついていない教科書もあり、原典をどこに求めるかによって主人公の年齢の解釈に違いがおき、教育現場などで混乱が起きたとある。

市川市立図書館の蔵書では『少年倶楽部』版は『少年倶楽部名作選3』(講談社 1966)に、『動物ども』版は『名著複刻日本児童文学館 第2集-31』(ほるぷ出版 1974)に所収。